

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679400095
法人名	有限会社 ひだまり
事業所名	グループホーム ひだまり
訪問調査日	平成22年2月17日
評価確定日	平成22年3月30日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4679400095
法人名	有限会社 ひだまり
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	鹿児島県大島郡和泊町国頭2959-1番地 (電話) 0997-92-2398

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価確定日	平成22年3月30日

## 【情報提供票より】(22年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 91.1 歳	最低	82 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝戸医院 前田歯科クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

島の地域特性の影響もあり、ホーム・家族・地域が三者一体となり、運営されているホームである。事業主でもある管理者は長年の認知症介護経歴を活かしながら認知症ケア教材の整備をし、島の事業所との交換研修に取り組み、同業者、行政との信頼関係を築いている。管理者・職員は利用者の立場で考え、家族と一緒に島外旅行、ペットの同伴、夫婦・兄弟一緒の利用の他、ホールにカメラ設置をし、インターネットで家族はいつでも利用者の状況を見ることが出来るよう工夫されている。福祉器具や夜間モニターを設置し、転倒防止に繋げるなど安全面にも考慮している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議は定期的開催し、外部評価で改善点がなくなるよう努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を理解し、管理者、職員、利用者も同席し、自己評価の項目ごとに意見を出し合い作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催している。スライドを見ながら、利用者の生活、行事、避難訓練、外部評価など報告している。メンバーの意見、話を聞いて地域の情報収集や参加者との連係に繋げている。行政よりホームの庭の水はけ工事をしてもらい、サービス改善につながった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口の設置や第三者委員を設けている。家族からインターネットカメラで気づいたことを電話してもらい、即対応している。最近では面会時にも個人的要望がほとんどであり、以前独自で設けていた地域評価委員制度を復活させ、運営改善に活かすよう検討している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者、管理者、職員は地元出身の顔なじみである。地域の長寿クラブ、保育園、小学校の運動会や発表会、夏祭り見学や中学生の職場体験を受け入れている。ホーム主催のバーベキュー大会には家族、地域住民の参加をもらい、敬老会はそれぞれ利用者の地区に帰って参加するなど、ホーム、家族、地域が三者一体となった交流ができています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	島の地域性もあり、開設当初から地域社会との関わりを推進、支援するホーム独自の理念を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関正面に掲示し、申送りや会議に置いて理念を共有、理念に沿ったケアを提供している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者、管理者、職員は地元出身の顔なじみである。地域の長寿クラブ、保育園・小学校の運動会や発表会、夏祭り見学や中学生の職場体験を受け入れている。ホーム主催のバーベキュー大会には家族、地域の参加をもらい、敬老会はそれぞれ利用者の地区に帰って参加するなど、ホーム、家族、地域が三者一体となった交流ができています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員・利用者も同席し、自己評価の項目ごとに意見を出し合い作成している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している。スライドを見ながら事業、利用者の生活、行事、避難訓練、外部評価など報告している。メンバーの意見や話を聞いて地域の情報収集や参加者との関係に繋げている。行政よりホームの庭の水はけ工事をしてもらい、サービス改善につながった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同敷地内の社会福祉協議会の建物で管理者は地域住民に健康体操講習や島の事業所対象に勉強会を開催するなど行政や社協とも関係がとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には毎月、ホーム便りや個別の写真、金銭出納帳のコピーを送り報告している。家族はホールに設置されたインターネットカメラを通じ、いつでもホーム内の様子が見えるようになっている。面会も多く、健康状態、状況や職員の異動についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口の設置や第三者委員を設けている。家族からインターネットカメラで気づいたことを電話してもらい、即対応している。最近は面会時にも個人的要望がほとんどであり、以前独自で設けていた地域評価委員制度を復活させ、運営改善に活かすよう検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの支援が出来るように地域の人を採用し、職員の負担軽減を図るために介護機器を活用している。この1年間は退職者はなく、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム内研修会ではDVDを購入し、最新の情報を基に学習している。管理者は島全体の介護事業者のケア向上のために各種研修会を開催したり、DVD、資料なども貸し出している。新人カリキュラム、研修計画を作成し、職員を島外研修にも参加させ報告会を実施、知識の共有を図り、職員のレベルアップに繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の管理者会議や交流する機会をもっている。職員、利用者もドライブがてら他のホームを訪問し、相互交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	待機の段階から訪問し、なじみの関係を作ったり、事前見学や体験利用を実施している。隣接の介護予防教室で利用者同士のなじみの関係もできているなど、本人、家族の納得の上でのサービス利用を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家事や民謡、踊り、島の珍しい野菜の調理法など教えてもらいながら、ともに生活し、学び、支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の主体性を大切に思いを聞いている。職員は日常生活の中で本人の様子や言葉から得た情報を話し合い、意向や希望の確認をし、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に利用者、家族、職員でケース会議を行っている。関係者の意見も聞き、利用者・家族の希望を可能な限り取り入れ、より良く暮らすための介護計画を作成している。島外の家族とは密に連絡を取り、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定期間に応じて家族を交えて検討し、現状に即した介護計画の見直しをしている。個々の状態に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じて通院、定期受診、買い物、理美容院の送迎など柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を大切にし、利用者のかかりつけ医の受診の継続を支援している。専門医療受診は利用者・家族・職員同行で適切な医療支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期のあり方を話し合い、意向を確認している。家族、医師、看護師、職員間で話し合いを十分に行い、方針の共有ができています。介護経過記録、日報に利用者の経過、家族との話し合いなどの記録を細かく記載している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員から個人情報保護についての誓約書を貰い、接遇の研修を実施している。ホーム便りなどの写真掲載の同意書も家族から貰っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々の主体性を大切に自己決定を促しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は準備、調理、後片付けの一連の流れを役割分担しながら取り組み、食事を楽しんでいる。公園に弁当を持参し、食事をしたり、近くの居酒屋に出かけることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日でも入浴は可能である。介助しながら一人ずつ入浴を楽しんでもらっている。利用者の希望、状態に応じてシャワー浴、清拭もしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、洗濯物干し・たたみ、野菜・花作り、犬小屋造りなど能力を活かした役割を持って生きがいを見つけ、リズムのある生活を支援している。初詣、駅伝の応援や老人会に出かけたり、家族と一緒に島外旅行など、楽しみごと気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に散歩したり、公園やウッドデッキでお茶を飲んだり、ホームの車でドライブするなど戸外に出かける支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に入出りできる。外出傾向の利用者の把握もできており、地域の人との協力も得ている。夜間は家族の同意を得てカメラを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防団や地域住民参加で昼夜想定火災訓練を実施している。地域住民の「ひだまり守り隊」が結成されており、避難訓練では必要な物資の持ち出しや炊き出しなど自主訓練している。備蓄、自家発電機もある。火災通報装置、スプリンクラーも申請中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は利用者の意見を取り入れ作成している。献立表は町の栄養士に依頼し、アドバイスを貰っている。食事摂取量は記載し、水分量は1日の水分確保の為に各居室にやかんと湯飲みを置いて支援している。個々に応じて食事形態も工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く風通しの良い造りにできている共用空間は、生活感や季節感を取り入れ南国情緒あふれる雰囲気のでている。ホールにはゆっくり横たわれる畳のコーナーやソファがあり、熱帯植物や絵画が飾られ蛇皮線や太鼓を置いて利用者がいつでも島唄を歌ったり、踊ったり出来るよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切にしていた品物やペット、使い慣れた調度品など持ち込まれ、花、写真、カレンダーなど飾り、本人が過ごしやすいように工夫している。		